

平成 3 0 年 1 2 月 2 1 日 発行

まなざし

横手清陵学院 P T A 会報

発行 秋田県立横手清陵学院中学校 P T A

秋田県立横手清陵学院高等学校 P T A

編集 横手清陵学院 P T A 広報部



清陵なら きつとかなう 海外留学の夢



横手清陵学院では海外からの留学生を受け入れています。しかし、それだけではなく、毎年のようにさまざまな国へ留学する生徒がいます。中高一貫校の特徴を生かすことで、ほかの高校ではできない、高校1年生での留学が可能になります。昨年8月からドイツに留学し、7月に帰国した佐藤寧々さん(23組)に留学の体験談、お家の方々のサポート、後輩の皆さんへのアドバイスをうかがいました。今年度は加茂谷美裕さん(11組)と齋藤日向子さん(12組)の二人がドイツの別々の学校へ8月から留学しています。出発前に留学に期待することや準備についてうかがいました。

ドイツ留学を終えて

Q 留学を決めた理由は何ですか？

A 小さい頃にグアムに行って、また外国に行きたいと思っていました。中3の時、先輩の留学体験談を聞き、私も高校で留学したいと思うようになりました。高2、高3で留学すると、帰国しすぐに大学受験です。清陵だと、中3で準備、高1で留学できるので、決心しました。

Q 家族は留学に対してどう思っていましたか？

A 留学したいと言ったら、「そう言うと思ってた」といわれました。10月中旬に申し込み、手続きをしました。短期間で高額のお金を準備しなければならなかったのですが、工面し

てくれました。



Q 家族と連絡を取ることはありましたか？

A ドイツ語を身に付けるため、意識して連絡をとらないようにしていました。たまに連絡するのは「荷物を送って」とかでした。ホストファミリーには「もっとお母さんに連絡してあげて」といわれました。

Q 始めからドイツへの留学を希望したのですか？

A 第一希望はアメリカでした。しかし、英語以外の言語も学びたいと思い、ドイツに決めました。

Q 一番の思い出は何ですか？

A 第3位はYFU(留学を支援する機関)のオリエンテーションで、世界中からドイツに集まっている留学生と

ミュンヘンで交流し、多くの国の人と友達になったことです。

第2位はYFUの友達とチェコのプラハに旅行に行ったこと。

第1位は帰国する直前にホストファミリーやクラスの友達がさよならパーティーを開いてくれたことです。私に秘密でみんな準備してくれていました。プレゼントや手紙をもらい、感謝しました。

Q 留学中に困ったことはありませんか？

A ホームシックになったことが一番大変でした。体調を崩したときにとっても不安になり、自分の家が恋しくなりました。覚悟はしていたのですが、なってみると思っていたより辛かったです。でも、ホストファミリーがそれを察してくれました。ドイツを楽しむことを考えたり、ハグの回数を増やしたりしながら乗り越えました。

Q ホストファミリーはどのような方々でしたか？

A 何年も留学生を受け入れていたそうです。友達とこんな話をしてみたら、とか、家にさそってみたら、などアドバイスしてくれました。友達が増えたのはそのおかげだと感謝しています。

Q ドイツの学校の様子を教えてください。

A 私が通ったのは普通科の高校です。そのような学校をギムナジウムといいます。90分、3コマの授業があり、昼すぎに放課になります。部活動のようなものもありますが、多くの人は学校外の活動を楽しみます。趣味で馬を飼っている人が多く、乗馬の練習をしてい

ました。私はテニスをしたり、ドイツ語の勉強をしたりしていました。

Q 勉強は大変でしたか？

A 大変でした。でも、数学は日本で学習した内容だったので、誰よりも早く解きました。公式を使って解くと、そんな方法があるのかと驚かれました。

Q ドイツでの勉強に違いはありましたか？

A 基本的に宿題はありません。長期休み、週末にもありません。高得点をとりたい人は予習をしていました。でも、勉強するのはテストの前くらいでした。

大学を受験する人は大学入学のための資格試験を受けます。合格すると国内の医学系以外のどの大学にも入学できます。また、その資格は永久です。3回まで受験できますが、ギムナジウム12年生はみんな必死です。

Q これから留学する方にアドバイスをお願いします。

A 留学は旅行とは違って辛いことがたくさんあります。でも、それ乗り越えたら帰国する頃には全く違った自分になって帰ってくるができます。将来の夢も定まるし、自分のことも好きになれる。行った国も好きになれるし、日本も、もっと好きになる。世界中に友達ができます。ぜひ、留学に挑戦してみてください。



留学に期待して

Q 留学を決めた理由は？

A 小さい時から留学することを決めていて、清陵に志願した理由も留学のためでした。中3の時に先生に声をかけていただき、自分で調べ、高1の夏に留学することを決めました。

A 小さい時から留学したいと思っていました。親が海外のボランティア活動をしていたので自分の留学願望と繋がっていました。清陵志願の理由も留学しやすいし、先生方からのサポートも大きいと聞いていたからです。

Q ドイツを選んだ理由は？

A ドイツは中学3年の社会の授業でドイツの戦争時代の映像を見て、今はどうなっているのかすごく気になっていました。食べ物(ソーセージ)にも興味があったのでドイツに決めました。

A 最初は英語圏かなと強く思っていました。最初がYFUからヨーロッパに行く価値は大きいと言われて調べてみました。自分の生活や日常でドイツとの関わりが大きいことを知り、興味がわいてドイツにしようと思いました。

Q 留学先をアメリカに、とは思わなかったのですか？

A 留学するには一般常識と英語の難しいテストがあって、かなりの高得点でないといアメリカにはいけないようでした。私は中3で英検2級を取りましたが、それでも難しかったです。英語の書類の提出もあるので、先生に教えてもらいながら取り組みました。ありがたい

ことに担任が英語の先生だったので、放課後に相談に乗ってもらっていました。

Q ホストファミリーは選べるのですか？

A YFUを介してホストファミリーから選んで頂いて、そこに行くという感じなんです。ホストファミリーからメールが来て、ファミリーの情報や、通う高校、私たちの町はこんな町だよとかフレンドリーな感じで情報をくれました。

Q 留学に不安はありますか？

A 行く前から絶対ホームシックになるなと思います。

A コミュニケーション取れなかったらどうしよう不安です。

Q 留学にかかる費用は？

A 結構かかります。お小遣いは別ですが、行くと決まった時点で支払う必要があります。ドイツでの研修代とか、日本の準備でも結構かかります。それでも私費で行くよりYFUなどの機関を使うと半分位で済むし、安心安全だからお勧めです。

Q 留学の手続きは？

A 日本から留学までの支援はしてくれませんが、それ以外は自分で準備します。自分で調べて手配することもたくさんあります。

Q 留学に向けて必要な準備は何ですか？

A 無料で資料請求もできるので英語料の先生に相談するのがいいと思います。留学しないで後悔するより留学した方がいいと思います。私達に教えられます。

こともいっぱいあるので聞いて下さい!!

A 中3で決めて高1で行けるのがこの学校ならではの特長だと思います。自分で決める事も大事ですが、先生や親のサポートなしでは留学できないのでじっくり話し合うことが大切です。

Q 後輩に向けて

A 清陵中生は中3の時に進路を決めているので、受験がない分考える時間があります。留学の相談をしたり、準備したりする時間があります。これが清陵中の強みだと思います。

A 留学するかどうか迷ったら、私達や先生に聞いた方がいいと思います。

留学してその国の事を知るだけでなく、その国の人に自分達のことを広め、かつ自分達が吸収したものを日本で広めることが大切です。帰国したら、皆さんに報告したいと思います。



ようこそ 清陵へ

皆さんは横手清陵学院のマスコットキャラクター“Seiちゃん”をご存知でしょうか？X'mas 目前の横手の空に輝く、かわいらしいイルミネーションは、学校を訪れる人の目を楽しませています。

さて、今回は、Seiちゃんの生みの親である佐藤碧音さん（3B）と、担当の田口康成先生からお話をうかがいました。

QSeiちゃんのモチーフは何ですか？

A横手清陵学院の校章です。Seiちゃんの顔のラインが緑豊かな山を表し、そこに清流のイメージをプラスしました。

QSeiちゃんの性別は？

A女の子です。いずれは弟や妹が登場するかも!?

QSeiちゃんってどういう性格？

Aまだ幼い女の子です。さわやかな外見で、清陵のイメージにぴったりです。とっても明るい子です。

QこれからのSeiちゃんに期待していることは？

A横手清陵学院を盛り上げ、永く愛されるキャラクターになってほしいです。

田口先生のお話によると、現在は二次元の Sei ちゃんですが、総合技術科で3D化が計画されているそうです。また、美術部では、デジタル化の試みも行われています。

スグッチのようにいろいろなコスチュームで部活動を応援するワッペンを作ったり、キャラクターを商品化したり、食堂で Sei ちゃんカレーが登場したり…と、これからの活躍に想像と期待が膨らみます。

Sei ちゃんが学校関係者のみならず、地域にも愛される存在になるよう、みんなで応援していきたいものです。



第31回 「青春回顧録」

PTA会員の方からご自身の学生時代をテーマに一筆頂きました。

ご自分の青春時代と比べてみて下さい。

連絡手段 T・W

友人との連絡手段といえば、自宅の固定電話だけ。その上、自室の子機で話している内容は、居間の親機に筒抜けだった私の学生時代。親に友人関係どころか、会話内容までほとんど把握されるという不自由な時代だった。

それに比べ、今の子どもたちはなんて自由なんだろう。子どももスマホを持つのがあたりまえで、SNSやSMSといったコミュニケーションツールで多数の友人と交流でき、会話内容どころか、相手が誰なのか親に知られて干渉されることもない。ある意味羨ましくもある。

しかし、自分が親の立場になり、子どもにとって親に干渉されるくらいの「不自由」があったからこそ、大きなトラブルに巻き込まれることもなく「安全」に過ごせたのだと強く感じる。

便利なコミュニケーションツールを手に入れ、親に干渉されることが少ない「自由」な現在の子どもたちには「自由」と「危険」は隣り合わせであることに気づいて欲しい。



あとがき



冬の星座が美しい季節になりました。寒さも本格的になり、今年も残すところあとわずか。今回の「まなざし」では、留学について実際に体験したお話を書き、記事にすることができました。私が学生の頃は留学という言葉は知っていても、身近な人が留学して体験などを聞く機会などありませんでした。

言葉、文化、生活習慣の全く違う国の人たちとの交流の中で、学生ならではの視点でたくさんのお話を吸収できた。知識だけでなく、これからの人生の選択の幅を広げていくものになるだろうなあと感じました。

そんな身近な友達や先輩の体験談は、聞いた人たちの興味を高め大きな刺激になった。そして留学とは無縁だった私はそう感じてしまいました。横手清陵学院の恵まれた環境の中で、本人の頑張りはもちろん、たくさんのことに挑戦できることは幸せなことだと思っています。

今回の「まなざし」で子どもたちの頑張りが少しでも多く届いてくれれば幸いです。



清陵ホームページ



広報部メールアドレス